PRIMERGY

B7FY-0901-01

TX150

取扱説明書

ラックマウント変換機構
（PG-R1CK15）

はじめに

このたびは、PRIMERGY TX150 ラックマウント変換機構（PG-R1CK15）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ラックマウント変換機構は、ペディスタルタイプのサーバをラックに搭載するために、ラックマウントタイプに変換するためのキットです。
本書はラックマウント変換機構の取り扱いの基本的なことがらについて説明しています。
本書をご覧になり、ラックマウント変換機構を正しくお使いいただきますよう、お願い致します。

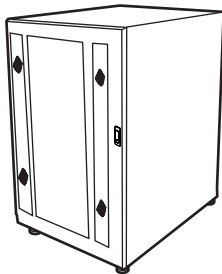
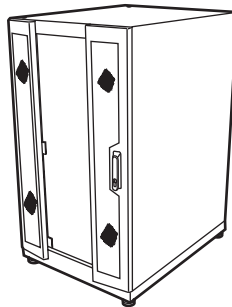
2003 年 6 月

安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。
本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。
また本書は、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

ラックについて

サーバを搭載できるラックには、3 つのタイプがあります。以下のラック以外にはサーバを搭載することができませんので、ご注意ください。

- **スタンダードラック**
  （型名：PG-R3RC1、PG-R3RC2、PG-R4RC1、PG-R4RC2）
- **スリムラック**
  （型名：GP5-R1RC6、GP5-R1RC7、GP5-R2RC3、GP5-R2RC4）
- **16U ラック**
  （型名：PG-R5RC1）

本書の表記

■ 警告表示

本書ではいろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

⚠	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
🛇	🛇で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
❗	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

　例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

　例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy  a:  a:
         ↑   ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを 1 回押してください。
- 使用する OS が Windows または MS-DOS の場合は、コマンド入力を英大文字、英小文字のどちらで入力してもかまいません。
- ご使用の環境によって、「¥」が「\」と表示される場合があります。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、［CD-ROM ドライブ］で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

　［CD-ROM ドライブ］¥setup.exe

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。
なお、本書ではお使いの OS 以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記
PRIMERGY TX150 ラックマウント変換機構	ラックマウント変換機構／本製品
PRIMERGY TX150	サーバ本体／本サーバ

■ サーバタイプの呼び方

使用するハードディスクユニットの種類で区別して、以下の名称を用いて説明しています。

ハードディスクユニットの種類	本文中の表記
IDE 規格に準拠したハードディスクを搭載したタイプ	IDE タイプ
SCSI 規格に準拠したハードディスクを搭載したタイプ	SCSI タイプ

また、本サーバの形態を区別して、以下の名称を用いて説明しています。

タイプ	本文中の表記
据え置きタイプ	ペディスタルタイプ
ラックに搭載するタイプ	ラックマウントタイプ

安全上のご注意

本製品を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

・サーバ本体を湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に置かないでください。故障・火災・感電の原因となります。

・サーバ本体をラックマウントタイプに変換するときは、システムを終了し、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。
感電したり機器が故障するおそれがあります。

⚠ 注意

・サーバ本体をラックマウントタイプに変換するときは、必ず担当営業員または担当保守員に連絡してください。

・サーバ本体を直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温になる場所には設置しないでください。また、10 ℃未満の低温になる場所では、運用しないでください。故障の原因となります。

・サーバ本体を塩害地域では使用しないでください。故障の原因となります。

・ラックの開口部（通風孔など）をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。

・電源ケーブルおよび各種ケーブル類に足がひっかかる場所には設置しないでください。故障の原因となります。

・サーバ本体をテレビやスピーカの近くなど、強い磁界が発生する場所には設置しないでください。故障の原因となります。

・空気の吸排気口である装置前面部および背面部をふさがないでください。これらをふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。

・サーバ本体を移動する場合は、必ず電源を切り、ケーブル類／マウス／キーボード／ AC ケーブルを外してください。オプションの搭載によって、最大29kg の重量となりますので十分注意してください。

目次

1　本製品の梱包物

ここでは、本製品に同梱されている部品を示します。
作業を行う前に、以下のリストに従って部品がすべてそろっているかどうかを確認し、万一足りない部品があった場合は担当営業員に連絡してください。

部品	
□ラックフロントカバー：1 枚	□フロントカバー：1 枚
□ CPU ラベル：1 枚 （Pentium® 4 プロセッサ 2.4BGB 用）	□ CPU ラベル：1 枚 （Pentium® 4 プロセッサ 3.06GB 用）
□レールブラケット：2 本	□スライドレール：2 本
□フロントカバーブラケット：2 個	□ブラケット A (*1)：左右 1 組 [左]　[右]

部品	
□ブラケット B (*1) : 2 個	□ブラケット C (*1) : 2 個
□ M4 バインドネジ : 14 個	□ M4 タップタイトネジ : 8 個
□ M5 ネジ (*1) : 8 個	□ M6 ネジ (*1) : 4 個
□ M6 サラネジ (*1) : 4 個	□スクリューホルダー (*1) : 4 個
□ M5 ラックナット : 4 個	□スプリングナット (*2) : 4 個

*1） スリムラックへまたは 16U ラックの搭載時のみ使用します。

*2） スタンダードラックへの搭載時のみ使用します。

2　操作方法

本章では、サーバをペディスタルタイプからラックマウントタイプに変換する手順について説明します。

- ラックマウントタイプへの変換作業を行う前に、必ずシステムを終了させ、サーバ本体および接続している周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。感電の原因となります。

- 内部のケーブル類や装置を傷つけたり、加工したりしないでください。故障・火災・感電の原因となります。

⚠注意

- サーバをラックマウントタイプに変換するときには、担当営業員または担当保守員に連絡し、変換作業は必ず担当保守員に行わせてください。

- サーバのラックマウントタイプへの変換作業は、安定した場所で行ってください。オプションの搭載によって、最大 29kg の重量となりますので十分注意してください。

- サーバのラックマウントタイプへの変換作業は、サーバ本体を横にして作業をするのに十分な広さの場所で行ってください。

- サーバをラックマウントタイプに変換する前に必ずシステムを起動し、システムの動作状況を確認してください。

- 電源を切った直後は、サーバの内部の装置が熱くなっています。内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと 10 分ほど待ってから、作業を始めてください。

- 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電してください。

- 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や、基板の縁を持つようにしてください。

■ 操作全体の流れ

1. **変換作業前の準備を行います。**
2. **ハードディスクカバーを取り外します。**
3. **左側のサイドカバーを取り外します。**
4. **内蔵ハードディスクユニットを取り外します。**

⚠ 注意

・必ず内蔵ハードディスクユニットを取り外してください。作業中に内蔵ハードディスクユニットに衝撃が加わると、保存されているデータが損傷することがあります。

5. **フロントカバーを取り外します。**
6. **右側のサイドカバーを取り外します。**
7. **固定足を取り外します。**
8. **各ドライブとオペレータパネルを入れ替えます。**
9. **フロントカバーブラケットを取り付けます。**
10. **本製品に添付のフロントカバーを取り付けます。**
11. **IDE タイプの内蔵ハードディスクユニットを搭載している場合は、手順 4 で取り外した IDE ハードディスクを再び取り付けます。**

⚠ 注意

・内蔵ハードディスクユニットを取り付けたあとは、サーバ本体に衝撃を与えないように注意して作業を行ってください。作業中に内蔵ハードディスクユニットに衝撃が加わると、保存されているデータが損傷することがあります。

12. **手順 3 で取り外した左側のサイドカバーを再び取り付けます。**
13. **ラックフロントカバーを取り付けます。**
14. **ラックマウント変換機構をサーバ本体に取り付け、ラックへ搭載します。**
15. **SCSI タイプの内蔵ハードディスクユニットを搭載している場合は、手順 4 で取り外した SCSI ハードディスクを再び取り付けます。**
16. **電源を入れる前の確認を行います。**
17. **Chassis ID を更新します。**

2.1　変換作業前の準備

1 「A 使用環境シート」（→ P.34）に、必要事項を記入します。

2 サーバのシステムが動作している場合は、システムを終了させます。

3 サーバ本体の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外します。

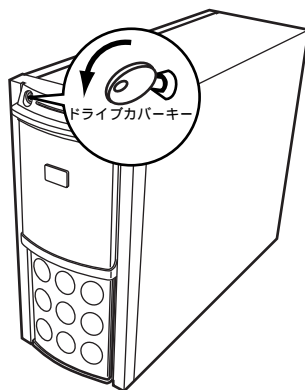
4 周辺機器が接続されている場合は、周辺機器の電源を切り、サーバ本体から取り外します。

2.2　ハードディスクカバーの取り外し

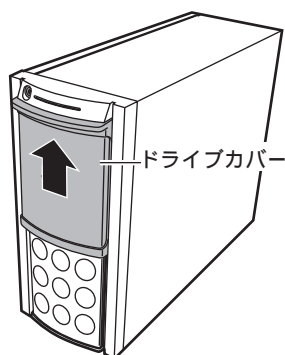
⚠ 注意

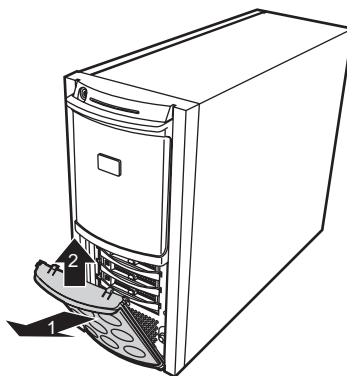
・カバーや内蔵オプションを取り扱う場合には、サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電してください。

・基板表面、半田づけ部、およびコネクタ部には触れないように、金具の部分や基板の縁を持つようにしてください。

1 ドライブカバーキーを左に回し、ロックを解除します。

⚠ 注意

・ドライブカバーキーは装置ごとに異なります。紛失しないように注意してください。
紛失した場合は、ロック部の破壊が必要であり、部品の有償交換となりますので、ドライブカバーキーの管理については十分ご注意願います。
なお、万一ドライブカバーキーを紛失された場合は、担当営業員まで連絡してください。

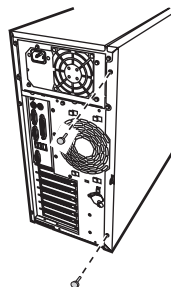
2　ドライブカバーを上方にスライドします。

3　ハードディスクカバーを取り外します。

ハードディスクカバーを手前に倒して、引き上げて取り外します。

4　サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電します。

POINT

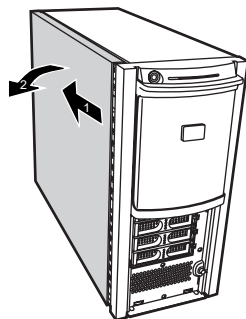
- ラックマウントタイプでは、ハードディスクカバーは使用しません。

2.3　左サイドカバーの取り外し

1　サーバ本体の背面側 2 箇所の M3 ネジを取り外します。

⚠ 注意

・取り外したネジは、左サイドカバーの取り付け時に使用しますので、なくさないように注意してください。

2　サイドカバーをゆっくりとサーバ背面にスライドさせ、サーバ本体から取り外します。

サイドカバーを手前に倒して取り外します。

2.4　内蔵ハードディスクユニットの取り外し

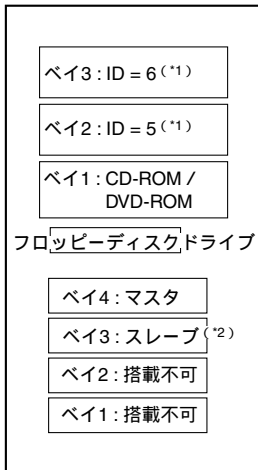
内蔵ハードディスクユニットは、ハードディスクカバーを取り外したあとにいったん取り外します。取り外した内蔵ハードディスクユニットは、IDE タイプはフロントカバーを取り付けたあと、SCSI タイプはサーバ本体をラックに搭載したあと、再度取り付けます。
ここでは、内蔵ハードディスクユニットの取り外しの手順について説明します。

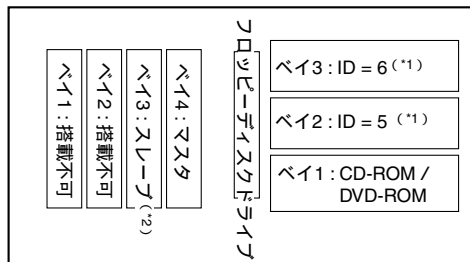
⚠ 注意

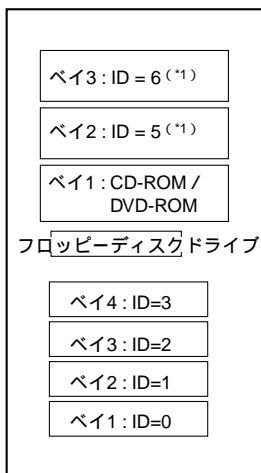
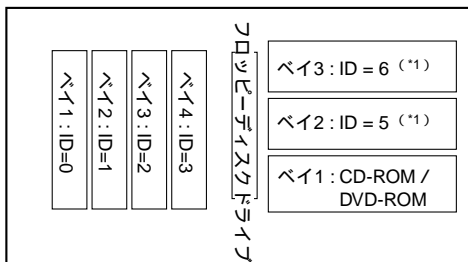
- **サーバ本体を移動する前に、必ず内蔵ハードディスクユニットを取り外してください。内蔵ハードディスクユニットに衝撃が加わると、保存されているデータが損傷することがあります。**

■ 内蔵ハードディスクユニットの搭載位置についての注意

サーバをペディスタルタイプからラックマウントタイプに変換すると、ベイの向きが変わります。
内蔵ハードディスクユニットは取り外す前にベイ番号を記録しておき、ラックマウントタイプに変換後は必ず取り外し前と同じ位置に搭載してください。

IDEタイプハードディスクの場合

***1）内蔵光磁気ディスク搭載時は、SCSI-IDを「4」に設定します。**

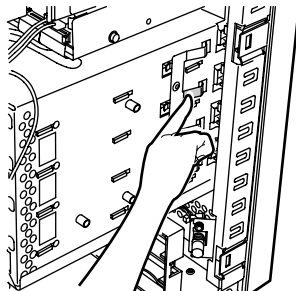
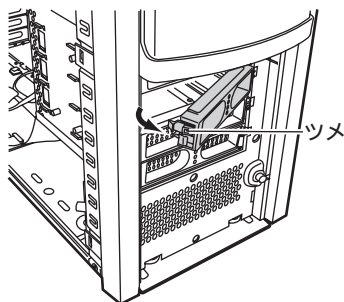
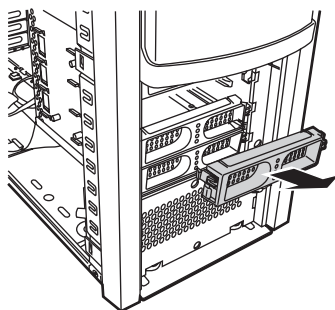
***2）IDEアレイタイプの場合は、ベイ3、ベイ4ともにマスタに設定します。**

[ペディスタルタイプ時正面図]　　[ラックマウントタイプ時正面図]

SCSIタイプハードディスクの場合

*1）内蔵光磁気ディスク搭載時は、SCSI-IDを「4」に設定します。

［ペディスタルタイプ時正面図］　［ラックマウントタイプ時正面図］

■ 取り外し手順（IDE タイプ）

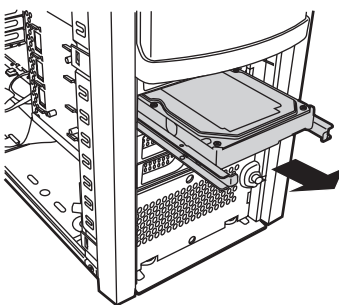
1 内蔵ハードディスクユニットから内部ケーブルと電源ケーブルを取り外します。

2 ベイ左側ある金具を押します。

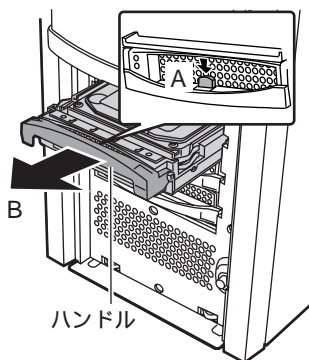
金具からベイカバーのツメがはずれます。

3　ベイカバーの左側にあるツメを押しながら手前に引きます。

4　ベイカバーを完全に取り外します。

⚠注意

・取り外したベイカバーは、内蔵ハードディスクユニットの取り付け時に使用しますので、なくさないようにご注意ください。

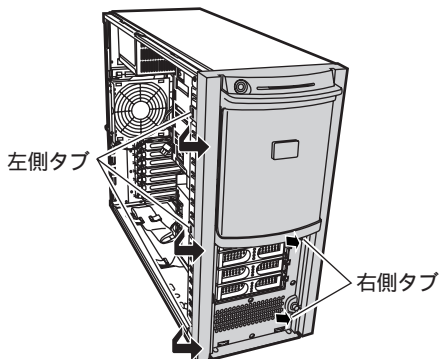
5　内蔵ハードディスクユニットをサーバ本体から取り外します。

内蔵ハードディスクユニットを矢印の方向に引き出して、取り外します。

■ 取り外し手順（SCSI タイプ）

1　内蔵ハードディスクユニットを取り外します。

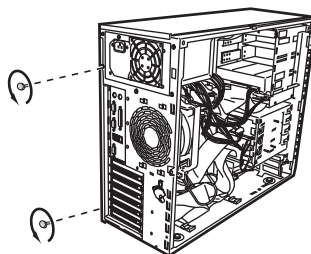
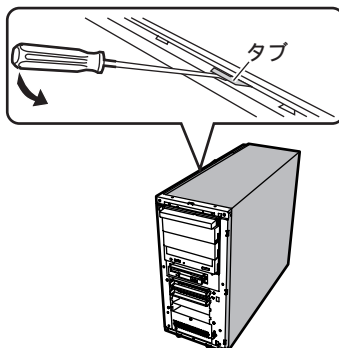
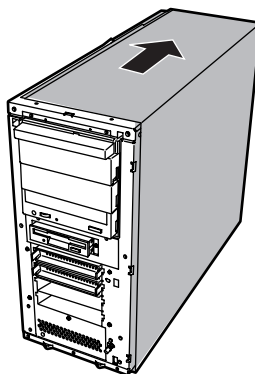
取り外したい内蔵ハードディスクユニット前面のタブを押しながら（A)、ハンドルを上側に開け、手前に引きます（B)。そのとき、内蔵ハードディスクユニットに手を添え、両手で持って引き出してください。

2.5　フロントカバーの取り外し

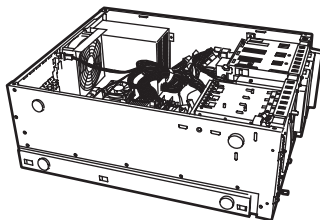
1　フロントカバーを取り外します。

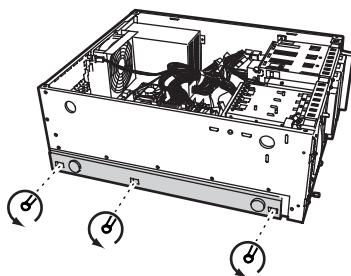
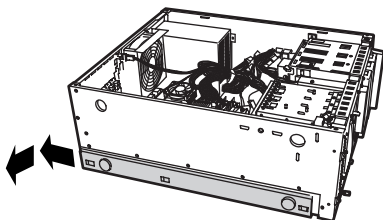
フロントカバーは、タブでサーバ本体と固定されています。
サーバ本体左側の 3 箇所のタブを外してから右側のタブを押しながら外し、フロントカバーを取り外します。

POINT

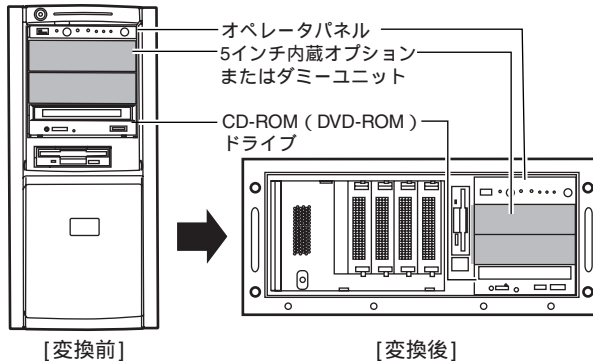
- ラックマウントタイプでは、ペディスタルタイプから取り外したフロントカバーは使用しません。

2.6　右サイドカバーの取り外し

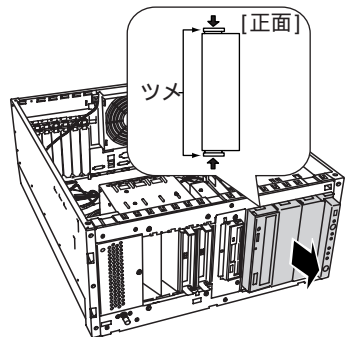
1　サーバ本体の背面側 2 箇所の M3 ネジを取り外します。

2　右サイドカバーのツメの下にドライバーを差し込んで持ち上げ、タブから外します。

3　右サイドカバーを後方に引いて取り外します。

2.7 固定足の取り外し

1 サーバ本体を図のように横にします。

2 下部の固定足のネジを取り外します。

固定足が取り付けられているプレートの左右各 3 箇所の M4 ネジを外します。

3 プレートを背面側にスライドさせ、手前に引いて取り外します。

2.8　各ドライブとオペレータパネルの入れ替え

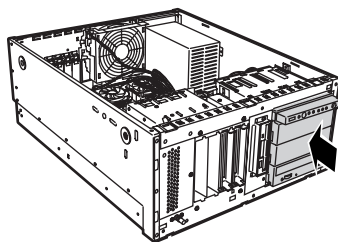
ここでは、CD-ROM（DVD-ROM）ドライブ、5インチ内蔵オプション、およびオペレータパネルの入れ替えの手順について説明します。
ラックマウントタイプに変換するときは、5インチストレージベイに搭載されているユニットとオペレータパネルを、向きを変えて入れ替えます。

1　CD-ROM ドライブと 5 インチ内蔵オプションから内部ケーブルおよび電源ケーブルを取り外します。

2　オペレータパネル、5 インチ内蔵オプションまたはダミーユニット、および CD-ROM ドライブを 5 インチストレージベイから取り外します。

上下のツメを内側に押しながら、ゆっくりと手前に引き出します。

POINT

- システム構成により、ダミーユニットは搭載されていない場合があります。

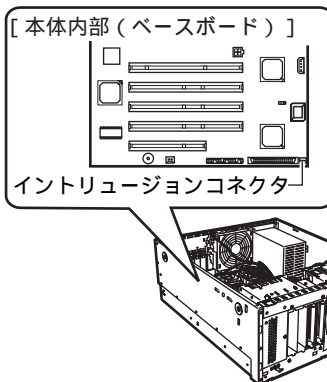
3　オペレータパネル、5 インチ内蔵オプションまたはダミーユニット、および CD-ROM ドライブを 90 度回転させて 5 インチストレージベイに取り付けます。

上から順にオペレータパネル、5 インチ内蔵オプションまたはダミーユニット、CD-ROM ドライブをベイに差し込み、カチッと音がするまで押し込みます。

⚠ 注意

・各ドライブやダミーユニットを取り付けるときは、ケーブル類をサーバ本体の部品にはさみ込まないように注意してください

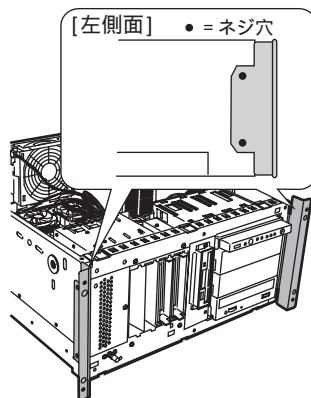
POINT

▸　システム構成により、ダミーユニットは搭載されていない場合があります。

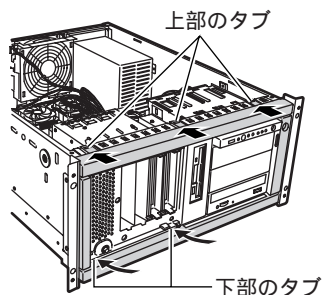
4　イントリュージョンケーブルをコネクタから取り外します。

5　CD-ROM ドライブと 5 インチ内蔵オプションに、内部ケーブルおよび電源ケーブルを接続します。

2.9　フロントカバーブラケットの取り付け

1　フロントカバーブラケットを、サーバ本体の両側に取り付けます。

左右のブラケットは、各 2 箇所ずつ本製品に添付の M4 タップタイトネジで固定します。

2.10　フロントカバーの取り付け

1　本製品に添付のフロントカバーを取り付けます。

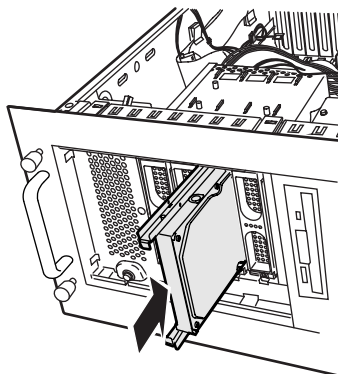
サーバ本体下部にフロントカバーの 2 箇所のタブをはめ込んでから、上部 3 箇所のタブをはめて取り付けます。

2.11 内蔵ハードディスクユニットの取り付け（IDE タイプ）

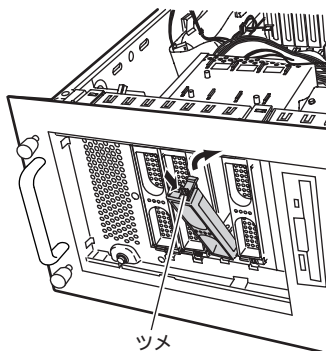
 注意

・内蔵ハードディスクユニットは、取り外したときに記録した位置と必ず同じ位置に内蔵ハードディスクユニットを取り付けてください（→「■ 内蔵ハードディスクユニットの搭載位置についての注意」（P.13））。
取り付け位置が違うと正しく動作しないおそれがあります。

・IDE ハードディスクを取り付けたあとは、サーバ本体に衝撃を与えないように注意して作業を行ってください。作業中に内蔵ハードディスクユニットに衝撃が加わると、保存されているデータが損傷することがあります

1 内蔵ハードディスクユニットをサーバ本体に差し込みます。

内蔵ハードディスクユニットを矢印の方向に差し込ます。

2 ベイカバーを取り付けます。

ベイカバーの右側のツメをサーバ本体のくぼみにはめてから、左側のツメを押しながらベイカバーの左側をはめ込みます。

3 内蔵ハードディスクユニットに内部ケーブルと電源ケーブルを接続します。

2.12 左サイドカバーの取り付け

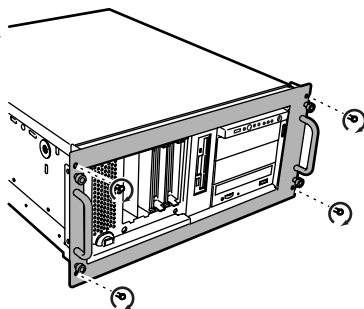
左サイドカバーは、「2.3 左サイドカバーの取り外し」（→ P.12）と逆の手順で取り付けてください。

 注意

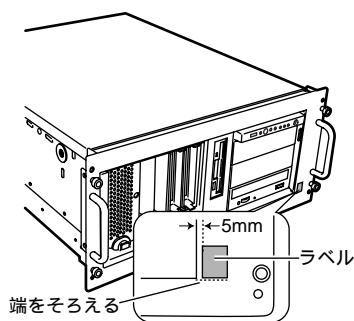
![警告]
・左サイドカバーを取り付けるときに、サーバ本体内部に不要な部品や工具を置き忘れたままにしないようにご注意ください。

2.13 ラックフロントカバーの取り付け

1 ラックフロントカバーを取り付けます。

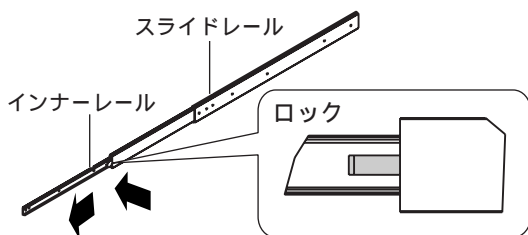
両側のフロントカバーブラケットに、本製品に添付の M4 タップタイトネジ 4 本で固定します。

2 本製品に添付の CPU ラベルを貼ります。

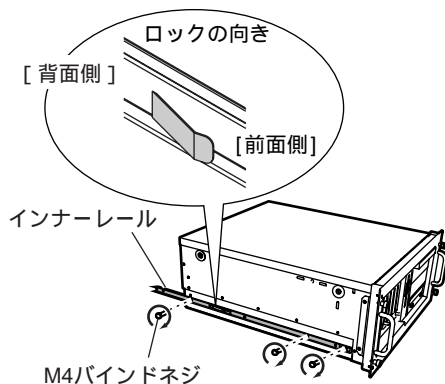
搭載されている CPU を確認し、正しいラベルを貼ります（→「1 本製品の梱包物」（P.6））。

図のようにラベルとフロントカバーの端をそろえてください。

2.14 サーバ本体のラックへの搭載

ここでは、インナーレールの取り付けからラックへの搭載までの手順について説明します。レールの取り付け手順は、使用するラックのタイプによって違います。

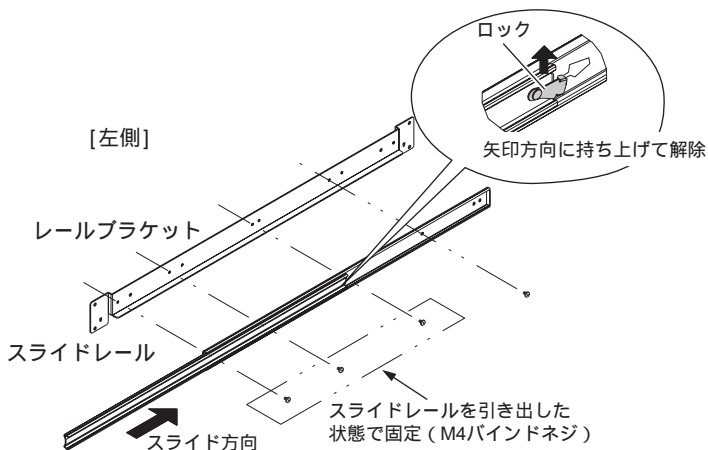
■インナーレールの取り付け

1　インナーレールを、ロックを押しながらスライドレールから引き出して取り外します。

2　インナーレールをサーバ本体の左右に取り付け、本製品に添付の M4 バインドネジで左右各 3 箇所を固定します。

左右ともに、インナーレールのロックの開いた部分が前面側にくるように取り付けます。

3　スライドレールをレールブラケットに取り付けます。

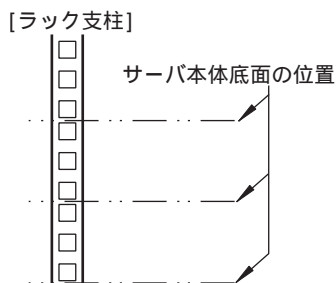
各スライドレールは、本製品に添付の M4 バインドネジ 4 本でレールブラケットに固定します。

ネジ止めをするときは、スライドレールを図のようにスライドさせながら行います。スライドさせるときは、スライドレールのロックを少し引き上げて解除します。

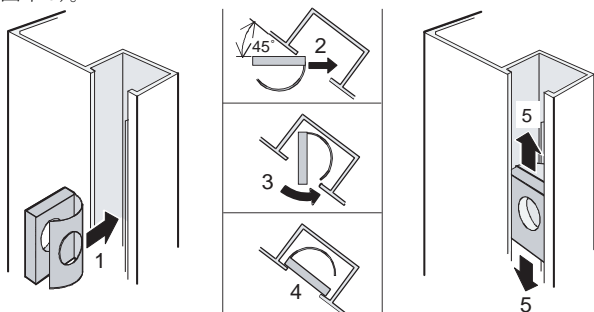
右側のスライドレールは、図のレールブラケットの向きに対して前後が逆になるように取り付けます。

■ サーバ本体の取り付け位置の選択

1　ラックのフロントドアとリアドアを開けます。

2　サーバ本体を取り付ける位置を決めます。

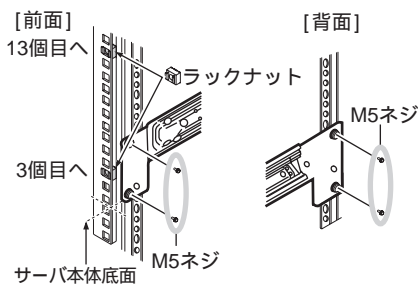
任意の、ラック支柱の穴の間隔が狭い位置にサーバ底面がくるように合わせます。

■ レールの取り付け手順（スタンダードラック使用時）

1　スプリングナットをラックに取り付けます。

本製品に添付のスプリングナット（各支柱 2 個ずつ）をラックの溝に図のように取り付けます（図中 1 ～ 4）。
取り付けたあと、レールを取り付ける位置までスプリングナットをスライドさせます（図中 5）。

2　レールとラックナットをラックに取り付けます。

本サーバは 5U 使用します。

1. 左右のレールをラックに取り付けます。
   レールの前後の外側にある 4 つの小突起をラック支柱の穴に引っ掛け、手順 1 で取り付けたスプリングナットと本製品に添付の M5 ネジ各 4 本で取り付けます。
2. 本製品に添付の M5 ラックナットを取り付けます。
   サーバ本体を取り付ける位置の下から 3 個目と 13 個目の位置に、ラックレールの内側からツメを引っ掛けて取り付けます。

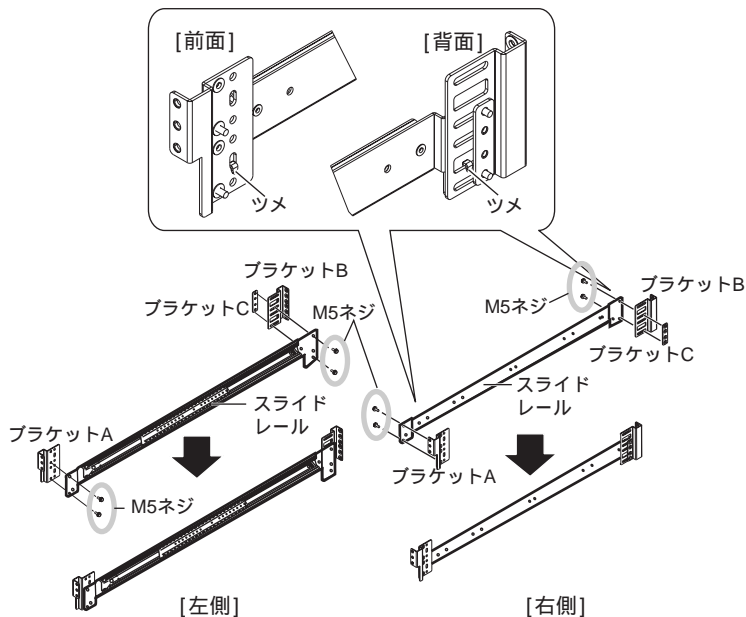
⚠ 注意

・ラックナットは、ラックに添付のものではなく、本製品に添付のものをご使用ください。

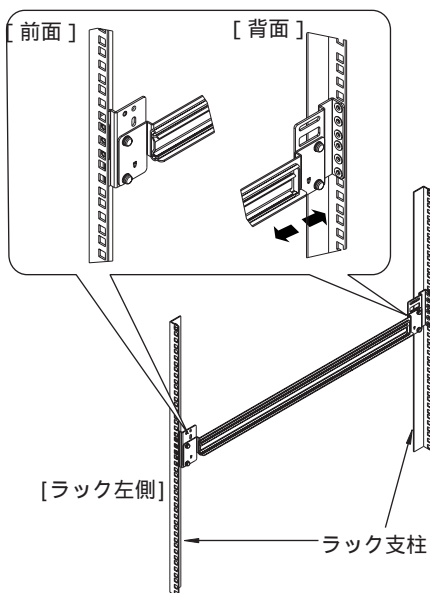
■ レールの取り付け手順（スリムラックまたは 16U ラック使用時）

1　レールを組み立てます。

スライドレールにブラケット（A、B、C）を、本製品に添付の M5 ネジ前後各 2 本で取り付けます。

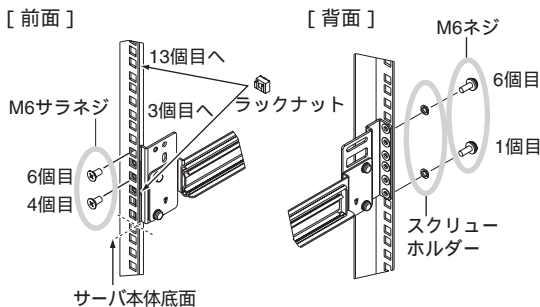
ブラケット A、B は、スライドレールの内側のツメをブラケットの穴に引っ掛けてからネジをしめます。

背面側のブラケットは、ネジを軽くしめておきます。

2　レールブラケットの長さを左右ともにラックの幅に合わせます。

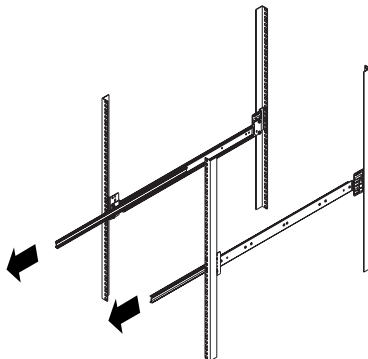
背面側のブラケットをスライドさせて、レールブラケットをラックの幅にあわせ、手順 1 で軽くしめておいた背面側のブラケットのネジをしめて固定します。

3　レールとラックナットをラックに取り付けます。

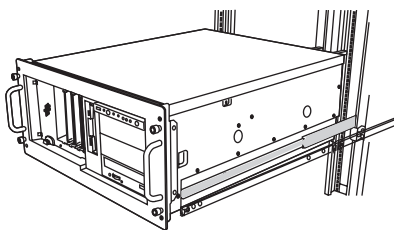
本サーバは 5U 使用します。

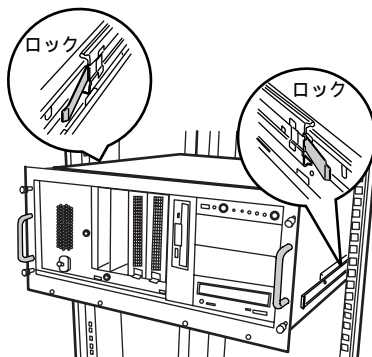
1. レールを取り付けます。
   レールはサーバ本体を取り付ける位置の下から、前面は 4 個目と 6 個目の位置に本製品に添付の M6 サラネジのみで取り付けます。背面はスクリューホルダーとともに M6 ネジで取り付けます（M6 ネジ、スクリューホルダーは本製品に添付）。
2. 本製品に添付の M5 ラックナットを取り付けます。
   サーバ本体を取り付ける位置の下から 3 個目と 13 個目の位置に、ラックレールの内側からツメを引っ掛けて取り付けます。

注意

・ラックナットは、ラックに添付のものではなく、本製品に添付のものをご使用ください。

■ ラックへの搭載

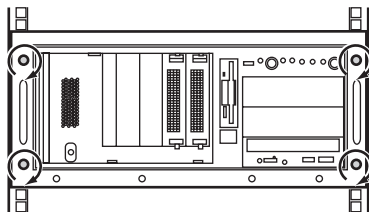
1　スライドレールを、カチッと音がするまで伸ばします。

2　サーバ本体をスライドレールに取り付けます。

スライドレールの溝に、サーバ本体に取り付けたインナーレールの溝を合わせて差し込みます。

3　サーバ本体を後方にスライドさせ、ラックに搭載します。

サーバ本体左右のレールのツメを押して、ロックを解除してから後方にスライドします。

注意

- サーバ本体をスライドさせる場合やロックを解除する場合は、指や衣服がはさまれないよう注意してください。けがをするおそれがあります。

4 サーバ本体とラックを固定します。

サーバ本体とラックを 4 本のつまみネジで固定します。

重要

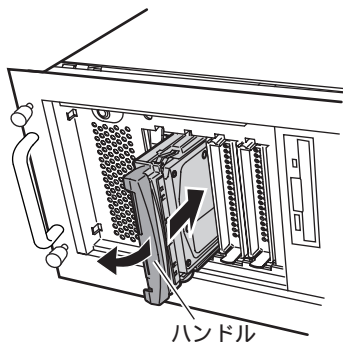
- ラックにサーバおよび周辺装置が搭載されていない場合には、 ラックに添付のブランクパネルを取り付けてください。

2.15 内蔵ハードディスクユニットの取り付け（SCSI タイプ）

 注意

- 内蔵ハードディスクユニットは、取り外したときに記録した位置と必ず同じ位置に内蔵ハードディスクユニットを取り付けてください（→「■ 内蔵ハードディスクユニットの搭載位置についての注意」（P.13）参照）。
取り付け位置が違うと正しく動作しないおそれがあります。

1 内蔵ハードディスクユニットをサーバ本体に取り付けます。

内蔵ハードディスクユニットのハンドルが上げられた状態で、内蔵ハードディスクユニットベイに差し込みます。
内蔵ハードディスクユニットのハンドルを戻し、確実に差し込みます。

2.16 電源を入れる前の確認事項

サーバに電源を入れる前に、必ず次のことを確認してください。

■ 内蔵ハードディスクユニットについて

確認事項	確認
3.5 インチストレージベイの奥まで完全に差し込まれていますか？	□
すべての内蔵ハードディスクユニットが取り付けられていますか？	□

■ ケーブルについて

確認事項	確認
指示どおりに接続されていますか？	□
各ドライブのコネクタに完全に差し込まれていますか？	□
すべてのケーブルが取り付けられていますか？	□
取り外すように指示してあるケーブルは取り外しましたか？	□
「2.1 変換作業前の準備」（→ P.10）でサーバ本体から取り外した電源ケーブルは接続しましたか？	□

■ 拡張カードについて

確認事項	確認
拡張カードがスロットの奥まで完全に差し込まれていますか？ ※変換作業時の衝撃で拡張カードの差し込みがゆるむ場合があります。	□

■ 周辺機器について

確認事項	確認
「2.1 変換作業前の準備」（→ P.10）で取り外した周辺機器は、元どおりに正しく接続しましたか？	□

2.17 Chassis ID の更新

サーバ本体をラックに搭載したあと、ServerView の画面表示をラックマウントタイプの表示に更新するために、以下の作業を行います。

⚠ 警告

- ServerStart CD-ROM やハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを入れてシステムを起動する前に、ServerView の「OS ブート監視」機能が無効に設定されていることを確認してください（初期設定は無効です）。
  「OS ブート監視」機能を有効にしたままでシステムを起動すると、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。
  「OS ブート監視」機能を有効にして運用している場合は、運用を再開する前に、再度本機能を有効にしてください。ServerView の詳細については、『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

1 フロッピーディスクドライブおよび CD-ROM ドライブなどに媒体が挿入されていないことを確認します。

2 ディスプレイや周辺装置の電源スイッチを押します。

3 サーバ本体に添付の 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をセットし、サーバを起動します。

- 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」は、ServerStart CD-ROM から作成しておく必要があります。
  作成方法については『ソフトウェガイド 第 4 章 OS インストール後の操作』を参照してください。

4 Menu より、「Server Management Tool」を選択し、【Enter】キーを押します。

DOS プロンプトが表示されたら、フロッピーディスクを取り出します。

5 サーバ本体に添付の「Server Management Tools」ディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、次のコマンドを入力します。

```
A:\>f2rsb.bat 【Enter】
```

正常に行われると、以下のように表示されます。

```
Succsess!
```

6 次のコマンドを入力します。

```
A:\>f2rch.bat 【Enter】
```

正常に行われると、以下のように表示されます。

```
Success!
```

7　サーバ本体の電源を切ります。

POINT

- サーバをペディスタルタイプに戻した場合には、以下の作業を行ってください。
  1. フロッピーディスクドライブおよび CD-ROM ドライブなどに媒体が挿入されていないことを確認します。
  2. ディスプレイや周辺装置の電源スイッチを押します。
  3. サーバ本体に添付の 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をセットし、サーバを起動します。
  4. Menu より、「Server Management Tool」を選択し、【Enter】キーを押します。
     DOS プロンプトが表示されたら、フロッピーディスクを取り出します。
  5. サーバ本体に添付の「Server Management Tools」ディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、次のコマンドを入力します。

     A:\>r2fsb.bat　　【Enter】

     正常に行われると、以下のように表示されます。

     ```
     Success!
     ```
  6. 次のコマンドを入力します。

     A:\>r2fch.bat　　【Enter】

     正常に行われると、以下のように表示されます。

     ```
     Success!
     ```
  7. サーバ本体の電源を切ります。

付録 A　使用環境シート

ここには、サーバ本体の仕様、ラック型名およびラックマウント変換機構型名を記録します。
この使用環境シートは担当営業員または担当保守員への連絡時に必要となりますので、なくさないようにご注意ください。

サーバ	モデル名	PRIMERGY TX150
	型名	□ GP__________　□ PG __________
	シリアル番号	
	Product Key (*)	–　–　–
ラック型名		
ラックマウント変換機構型名		PG-R1CK15

*) サーバ本体の左右どちらかの側面にProduct Keyラベルが貼付されている場合にのみ記載してください。

PRIMERGY TX150

ラックマウント変換機構（PG-R1CK15）
取扱説明書

B7FY-0901-01-00

発 行 日　2003 年 6 月
発行責任　富士通株式会社

Printed in Japan

● 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
● 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。

● 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

Ⓟ 0306-1